

令和3年12月 市長定例記者会見

令和3年11月22日(月)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 ただ今より令和3年12月市長定例記者会見を始めさせていただきますと思います。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、まず挙手をお願いいたします。そして、ご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようお願い申し上げます。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 では、12月定例記者会見よろしくお願いいたします。

まず、本日は12月議会の告示日となりまして、11月30日から12月21日までの22日間の開会になります。今日発表させていただきます補正予算を上程させていただきます。

それから、昨日は、新庁舎、また消防庁舎の竣工式を執り行わせていただきました。竣工を無事迎えることができました。これもひとえに市民の皆様、また議会の皆様、そしてまた工事関係者、ご協力いただきました皆様のおかげだと感謝申し上げます。また、新庁舎は、末永く親しまれ、多くの方が利用しやすい庁舎となりますよう職員一丸となって努力していきますので、よろしくお願いいたします。

それから、専決なんですけれども、子育て世帯臨時特別給付金、18歳以下の子供を対象に給付する予算の専決処分を行いました。子育て世帯へ年内をめどに現金5万円を円滑に給付できるよう努めてまいります。

それから、国道の話なんですけど、国道8号、東浦のほうにつきましては、いよいよ年度内につち音が響きそうな感じになってきましたので、非常に期待しているところです。

それから、小河口のところですが、片側1車線になって、トンネルの出口について、こっちから上がっていきますとちょっと交通に支障があるという苦情も出ておりましたが、そこが2車線になりました。通ってみると何もストレスがないので、あたかも前からあったように感じますが、2車線になりましたので、冬場に備えてよかったなというふうに思っています。

それから、先日の愛発地区、ドローンの配送の実証実験になっていくということで、しっかりと形になるように進めていきたいと考えております。

今日は発表項目1項目ですけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 事業発表につきましては、令和3年度12月補正予算ということで、今回の補正予算につきましては、9月補正以降に予算措置が必要となったものを計上しております。

まず、本年12月から開始が予定されています3回目の新型コロナウイルスワクチン接種

に係る経費とともに、この接種を来年にかけて実施するための各種業務委託に係る債務負担行為を計上いたしました。また、ふるさと納税の寄附見込額増加に伴う返礼品の送付等に係る経費を計上いたしました。

そのほか、補正予算の主な事業としまして、総務費では、敦賀気比高校と連携したJR小浜線の利用促進に関する実証経費を計上いたしました。

商工費では、港都つるが株式会社が行う博物館通りの遊休ビル改修に対し補助金を計上するとともに、新たな視点での地域資源の磨き上げや企画提案、情報発信を目的とした地域おこし協力隊を受け入れ、活動を支援するための債務負担行為を計上いたしました。

土木費では、駅西地区で整備が進められています知育・啓発施設において、開設時の書籍を調達、購入するための費用について、令和4年度までの債務負担行為を計上いたしました。

教育費では、児童生徒にICTを活用した学習指導環境を整備するために、インターネット環境がない家庭に対する貸出用モバイルWi-Fiルーターの購入経費等を計上いたしました。

また、特別会計では、産業団地整備事業特別会計において、分譲事業者の指定に伴い、分譲地売払収入による県借入金の償還金を計上いたしました。

企業会計では、市立敦賀病院事業会計におきまして、新型コロナウイルス感染症対応職員等への特別手当を計上いたしました。

以上が今回の補正予算の概要でございます。よろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今発表いたしました項目につきまして質問をお受けしたいと思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 補正の中の敦賀気比高校と連携した小浜線の実証事業について伺います。実証というのは何を実証しようとしているのか。この補助については、利用する学生の電車運賃ということでよろしいのでしょうか。

【市長】 敦賀気比高校、小浜から通っている子供さんたちがいらっしゃいますので、それをバスじゃなくて電車で置き換えたときに支障がないかどうかの実証実験をやろうとしています。定期については小浜線の利用でそちらの補助がありますので、バスなんかの補助にしようということをしております。

詳しくは部長のほうから答えます。

【企画政策部長】 現在、気比高では、敦賀から小浜間でスクールバスを運行しておりますけれども、そのスクールバスの運行区間を学校から美浜駅間、美浜の駅までスクールバスを運行しまして、若狭町や小浜市などから通学する生徒さんに小浜線を利用してもらうという実証事業を1か月間行ってもらうことに対しての補助をさせていただく予定の予算でございます。

【記者】 期間はいつからいつまでを予定していますか。

【企画政策部長】 実証期間としては1か月間ということで、来年1月頃になる予定でございます。

【記者】 ありがとうございます。

あと、ふるさと納税の増加に伴う予算なんですけれども、これはふるさと納税、敦賀市は以前から非常に好調なんですけれども、なぜというところを今の段階でどう分析されていま

すか。

【市長】 非常にうれしい悲鳴です。もともと海産物とか魅力のある商品が多かったのだからと思っておりますが、事業者の皆様、そして職員の頑張りによるものだと思っております。

分析については、部長に代わります。

【企画政策部長】 実際にコロナ禍の影響もありまして、ネット販売の拡大とか巣ごもり需要の増加等もあるのではないかと考えております。

あと、市長も言いましたけれども、職員、そして委託業者、それから事業者の頑張り等もありまして、新規返礼品の提供事業者数も増えておりますし、返礼品の拡充、数も増えているという状況にもなっております。

以上です。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかに、幹事社さん、よろしいでしょうか。

〔なし〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきましてご質問ございましたら挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 コロナ関連で、いろいろとお伺いします。

まず、3回目接種の関連の委託料など関連予算が計上されておりますけれども、3回目の接種スケジュールなど、特に市民の方への接種券発送などがいつぐらいになるのかということをまずお願いいたします。

【福祉保健部長】 3回目の接種につきましては、本年3月、4月に2回目接種を終えられた医療従事者から接種を開始していくということになります。先週、11月18日に、まず12月に接種予定の対象者の約500名の医療従事者の方に案内通知を送付しております。

今後、2回目接種終了から8か月経過する方に対して順次案内通知を発送していく予定でございますが、一般の住民の方、高齢者への接種につきましては2月からとなりますので、1月になりましたら対象の方に順次接種券を発送する予定でございます。

以上です。

【記者】 ありがとうございます。

病院事業会計のほうで、多分9月議会で病院事業管理者の方がおっしゃっていたと思うんですけども、コロナ特別手当の支給のことが書かれておりますけれども、このA、B、C、Dのパターンの人数の内訳と、Cとかの業務というのはどんなことを指すのか、ご説明いただけたらなと思います。

【敦賀病院事務局長】 まず内訳でございますが、Aの感染症病棟内診療看護検査業務につきましては56名でございます。それから、行政からの依頼による濃厚接触者等の検査業務、これはPCR検査の形でございますが、こちらのほうが72名でございます。それから、Cの新型コロナウイルス感染症拡大防止業務と申しますのは、発熱外来、私ども外にテントを設けまして、熱発者の方に事前にご連絡いただきまして、そこで検査を行って陽性、陰性等を確認するというような業務を行っておりますので、そういったような業務をすることについて、そこに任務した者ということで104名でございます。それから、Dにつきましては、その他病院の職員という形で402名という形になります。合計634名でございます。

【記者】 先ほどの質問に関連してなんですけれども、敦賀気比高校と連携したJR小浜線の実証実験について。やはり利用促進というところをより敦賀市として考えた場合に、こういう手段というのを一つ考えたほうがいいんじゃないかということで実験的にやってみるといふふうになったのかどうかという、その目的の部分をもう少し教えていただきたいのと、若狭町とか美浜町とかその辺りから敦賀気比高校に通う生徒さんの現状と、今後、バスと電車をどのように使ってやっていくのか、それをもう一度教えていただけますでしょうか。

【市長】 基本的には、敦賀気比高校の一部の生徒がバスで、小浜からスクールバスで通っているんですね。途中でピックアップしながら通っているということがありまして、働き方改革等もあって、バス代が結構高騰している状況というのが一つあります。

ただ、そういうサービスをしながらということもありますので、それが小浜線にシフトできるかどうかというのは、今回、実証実験をやってみて生徒の皆さんとか親御さんの反応を見るわけなんですけれども、そうしたほうが小浜線を存続させていくところにもプラスになりますし、学校の経営にもプラスになるんじゃないかという何となく予想がついていますので、その実証実験を一回やってみたいなど。学校に来る時間がかえって遅くなったりすると困りますので、栗野駅とか敦賀駅じゃなくて美浜駅での接続をしてやってみて一回反応を見ようということを考えています。

【企画政策部長】 通学手段の小浜線への転換が可能かどうかの実証ということでさせてもらうわけでございますけれども、小浜線に乗る習慣づけを進めるということも目的にありますし、イベント等への補助、それを否定するわけでもないですけれども、そういう一過性的なものでなくて、通学等に使っていただけるようになれば恒常的に使えるというふうな形にもなりますので、その辺も目的でございます。

あと、人数でございますけれども、現在、美浜より向こう側、若狭とか小浜とか、そこから通っておられる生徒さんにつきましては31名いらっしゃいますので、その方を予定しております。

今後については、市長が申し上げましたとおり、保護者へのアンケート等いろんなことをして、学内調整等もございますので、1か月間やってみて今後というふうなことをまた検討していくというふうな形になるかと思えます。

【記者】 美浜駅から電車ですか、美浜駅からバスですか。

【企画政策部長】 高校から美浜の駅までをバスです。美浜より以西、小浜のほう、あっち側を小浜線に乗っていただくというふうな実証事業でございます。

【記者】 あと、次の項目で、地域おこし協力隊の受け入れというのがあると思うんですけれども、これは新たにこういうふうな協力隊を受け入れるということなのか。あと、具体的な活動内容というか、その辺をどう想定しているのか。その辺も教えていただけますでしょうか。

【市長】 これは今お一人いらっしゃいますけれども、しっかり活動していただいているので、もう一人新たに活動人員を増やそうというチャレンジをしようかなという予算です。

活動内容については部長のほうから答えます。

【産業経済部長】 現在委嘱しております地域おこし協力隊につきましては、産業経済部ということで港都つるがに委託するものでございます。北陸新幹線敦賀開業に向けまして、

観光、商業、まちづくり、または農林水産とか、そういった産業的な分野につきまして、地域行事でしたり地元の産業とかそういったところへの参加や協力とか、敦賀の知見を深めてもらうという形で、発信とかイベントとかそういったものに関与してもらう、仕事に携わってもらうということを現在想定しております。

【記者】 今までは観光が強かったのが、これからは産業のほうに強い協力隊というようなイメージでいっちゃるといことですね。

【市長】 どんな人が来てくれるかが分からないんですけども、今まで観光でやってくださっていますので、ちょっと違ったほうがいいなど。産業を担ったほうがいいと思っていますが、港都つるがは中心市街地ですけれども、それにこだわらずに広い範囲でその方とマッチングできるような活動の場ができたらいいなと思っています。

【記者】 今の件に関連して、この地域おこし協力隊の人は、今のところいつ頃来る予定になっているかはお決まりですか。

【産業経済部長】 今回、就業といいますか事業に携わってもらうということを考えておりまして、その前段階で、来年の当初の予算までにそういった事務を進めたいということで債務負担です。めどとしては来年の4月ぐらいと考えておりますがいつ頃かというのは現在未定です。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

続いて、教育費のところなんですけれども、Wi-Fiルーターを配るとい形で、現時点で、もしまたコロナとかでご自宅でいろいろやるといったときに、何か例えばリモートの授業をするとか、そういったところを具体的にこういったものを考えているみたいなものがもしありましたら教えてください。

【教育委員会事務局長】 現在は端末の持ち帰りというのは行っておりません。各学校のほうにおきまして、インターネットでの調べ学習、またプレゼンテーションソフトを利用した発表資料の共同編集など、多くの場面で学校のほうにおいて活用させていただいております。

今後、新型コロナウイルス感染症の発生等によりまして長期間登校できない場合、これは学びの継続を確保するというようなことで、端末の持ち帰りを段階的に実施したいというふうに考えておりまして、今後、具体的に、学校にてウェブ会議アプリとか、また課題提出用のソフトの操作練習をさせていただきながら、また、そういったウェブ会議アプリの家庭での接続テストとかについて、補正予算をお認めいただきましたら試験的に実施していきたいというふうに思っております。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【記者】 コロナワクチンに関して細かい点なんですけれども、今回の予算に計上されました3回目接種に関する費用のトータル額はいくらになるのでしょうか。

【福祉保健部長】 後ほど返答させていただきます。

3回目の接種体制につきましては、追加といたしまして、新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費が2506万7000円で、新型コロナウイルスワクチン接種事業費が2497万2000円で移動支援事業が901万8000円ということにはなります。

【総務部政策幹】 3事業合計で5905万7000円になります。よろしく申し上げます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、次第の3番目、フリーの質疑へと移ります。これも幹事さんの方からお願いいたします。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。ご質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。よろしいでしょうか。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして12月の市長記者会見を終わらせていただきます。

本日はありがとうございました。

午後1時48分 終了